



Inclusive support

地域包括支援センター

行方市地域包括支援センター

☎ 0299-55-0114

いつまでも健やかにすみなれた地域で生活していけるよう、高齢者やご家族のみなさんを、医療、保健、介護および福祉などさまざまな方面から総合的に支援します

2025年問題に伴う役割の移行



5月号で、「2025年問題」の話をしましたが、ご覧いただけただでしょうか？2025年には、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という「超・超高齢社会」を迎えます。これは、高齢者が増加し、働く人口が減少する、つまり高齢者を支える人たちが少なくなるということです。

現在、介護職不足が問題となっていますが、介護職だけではなく、医師、看護師などの医療職も少なくなります。その対策として、国は、それぞれ行っている役割を少しずつ移行しようと考えています。

下図をご覧ください。これまで医師は診断・治療の他にリスクの予測を行ってきました。これからは、リスクの予測は看護師が行っていくということです。また、看護師はオムツ交換などの身体介護を行っていることも多いのが現状です。これを、介護職が全て担っていくこととなります。

自宅で生活している高齢者にとって、ヘルパー（介護職）の役割は重要になっています。ヘルパーが自宅に来て生活の支援を行ってくれている方、もしくは近所で利用している方を知っているという方も多いと思います。これからは、介護職が行っている掃除や洗濯、調理や買い物などの生活支援は、地域の方々や資格を持っていない人たちで支えていかないと大変なことが起こります。

大変なこととはどのようなことでしょうか？今ではたくさんの老人ホームができました。この老人ホームで働く介護職の人たちは、ほとんど身体介護を行っているといます。この身体介護を中心に行っている介護職の人たちが少なくなってしまうと、ベッドは十分にあっても職員が少ないために、施設に入れない高齢者が多くなっていくという大変な事態が起こります。これでは、施設入所が必要な方々が困ってしまいます。そうすると、やはり専門的な技術を要する介護職の方には身体介護に専念してもらい、体に触れないでできる掃除や洗濯などの生活支援については、地域の方々に支えていただくことを構築していかなければなりません。

このように役割を移行していかなければ乗り越えられない「超・超高齢社会」はもう目の前に来ています。

ロールシフト(役割の移行)から人的資源を確保する

【ロールシフトのイメージ】

以下の図は、法令上の区分や個別の現場の状況とは必ずしも一致しないが、全体のシフトのイメージを示すために作成。

【現在の役割】	【機能・役割の例示】	【ロールシフト後】
医師	診断・治療	医師
	リスクの予測	
看護師	診療補助行為	看護師
	適切な介助方法の選択 身体介護	
介護職	身体介護	介護職
	生活支援	
		地域の民間事業者やボランティアを含む多様な主体

Mitsubishi UFJ Research and Consulting 出所)岩名作成